

2020年東京オリンピック・パラリンピック、2024年国体・全国障害者スポーツ大会等に向けた文化・スポーツの振興について

【提案先】文部科学省、国土交通省

1. 提案内容

(1) 地域における文化芸術の創造・発信への支援

- 2019年に整備予定の新たな県立美術館などを拠点に、本県が推進するアール・ブリュットや地域に根付く文化財などを活かした特色ある取組を2020年東京オリンピック・パラリンピックの文化プログラムに位置づけ、世界に向けて発信するとともに、財政支援制度の充実。
- 日本有数の舞台芸術拠点「びわ湖ホール」など地域の劇場、美術館等が文化の発信拠点としての機能を発揮できるよう、施設改修等に対する補助金や交付税措置のある地方債の創設など実効性のある財源措置。

(2) スポーツの振興による地域活性化の推進

- 2020年東京オリンピック・パラリンピックの事前合宿や、2019年ラグビー・ワールドカップのキャンプが全国各地で実施されるよう、地方自治体の誘致活動に対する支援制度の創設。
- 国体・全国障害者スポーツ大会の競技会場ともなるスポーツ施設・公園施設の整備に対する支援の充実。
- スポーツによる地域活性化を図るため、それぞれの地域の特性に応じた「地域スポーツ・コミッション」の設置・運営に向けた支援制度の構築。
- 事前合宿の誘致活動を円滑かつ効果的に展開できるよう、東京大会のロゴマーク等を地方自治体が使用できる柔軟な仕組みづくり。

2. 提案の理由

- 滋賀県では、2024年の国体・全国障害者スポーツ大会に向けて、東京大会の開催効果を活かし、文化とスポーツの振興に取り組むため、「文化・スポーツ戦略」を策定したところ。
- 東京大会等の開催効果を日本全体に波及させるため、全国各地で事前合宿（キャンプ）が実施されるとともに、特色ある文化プログラムが展開されることにより、日本各地の魅力が世界に発信されることが重要。

(本県の取組状況)

地域に根付く豊富な文化財
国宝・重要文化財の指定件数において東京、京都、奈良に次ぐ文化財の宝庫



日本仏教文化の母山
世界遺産「延暦寺」

国体・全国障害者スポーツ大会
に向けてスポーツ施設を整備
主会場となる(仮称)彦根総合運動公園を国体後の利活用も見据え、多目的利用が可能な第1種陸上競技場として整備予定



滋賀県立彦根総合運動場(現在)

世界が認めた日本の
アール・ブリュット
滋賀県草津市在住の澤田真一さんの作品がヴェネチア・ビエンナーレに招待されるなど日本のアール・ブリュットが国内外で大きな関心

第55回ヴェネチア・
ビエンナーレ
国際美術展招待作品
(撮影・高田真澄)



滋賀県立芸術劇場びわ湖ホール

日本が世界に誇る文化施設と
そこから生み出される芸術作品
国内有数の4面舞台を持つ本格芸術劇場「びわ湖ホール」では、オペラ、バレエの上演や、クラシックの祭典「ラ・フォル・ジュルネ」を毎春開催

「琵琶湖」など滋賀の自然を
生かしたスポーツが盛ん

毎年5月初旬に開催される国内最大規模のボートレース「朝日レガッタ」や、びわ湖毎日マラソン、平成24年全国中学校総合体育大会など、国際レベルや全国レベルの各種競技大会実績も豊富



滋賀県立琵琶湖漕艇場